

令和元年第4回大仙市議会定例会会議録第3号

令和元年12月6日（金曜日）

議事日程第3号

令和元年12月6日（金曜日）午前10時開議

- 第 1 一般質問
- 第 2 議案第127号 会計年度任用職員制度の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について（質疑・委員会付託）
- 第 3 議案第128号 大仙市大綱交流サロン条例の一部を改正する条例の制定について（質疑・委員会付託）
- 第 4 議案第129号 大仙市一般職の職員の給与に関する条例及び大仙市一般職の職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について（質疑・委員会付託）
- 第 5 議案第130号 大仙市駐車場条例の一部を改正する条例の制定について（質疑・委員会付託）
- 第 6 議案第131号 大仙市大曲駅自転車駐車場条例の一部を改正する条例の制定について（質疑・委員会付託）
- 第 7 議案第132号 大仙市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について（質疑・委員会付託）
- 第 8 議案第133号 秋田県市町村総合事務組合規約の一部変更について（質疑・委員会付託）
- 第 9 議案第134号 大仙市協和内水面漁業近代化施設及び大仙市協和広場等利用施設の指定管理者の指定について（質疑・委員会付託）
- 第10 議案第135号 大曲地域職業訓練センターの指定管理者の指定について（質疑・委員会付託）
- 第11 議案第136号 大仙市神岡生産物直売・食材供給施設の指定管理者の指定について（質疑・委員会付託）

- 第 1 2 議案第 1 3 7 号 大仙市中仙地域農業総合管理施設の指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 1 3 議案第 1 3 8 号 八乙女温泉さくら荘の指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 1 4 議案第 1 3 9 号 大仙市神岡交流促進センターの指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 1 5 議案第 1 4 0 号 西仙北ぬく森温泉ユメリアの指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 1 6 議案第 1 4 1 号 協和温泉（四季の湯）の指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 1 7 議案第 1 4 2 号 大仙市南外ふるさと館の指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 1 8 議案第 1 4 3 号 史跡の里交流プラザ「柵の湯」の指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 1 9 議案第 1 4 4 号 太田交流の森及び太田レクリエーションの森の指定管理者の
指定について (質疑・委員会付託)
- 第 2 0 議案第 1 4 5 号 大仙市八乙女交流センターの指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 2 1 議案第 1 4 6 号 大仙市民プール等の指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 2 2 議案第 1 4 7 号 大仙市営八乙女球場及び大仙市八乙女運動公園テニスコートの
指定管理者の指定について (質疑・委員会付託)
- 第 2 3 議案第 1 4 8 号 太田新興緑地広場等の指定管理者の指定について
(質疑・委員会付託)
- 第 2 4 議案第 1 4 9 号 太田南部地区公園及び横沢東農村公園の指定管理者の指定に
ついて (質疑・委員会付託)
- 第 2 5 議案第 1 5 0 号 令和元年度大仙市一般会計補正予算（第 8 号）
(質疑・委員会付託)
- 第 2 6 陳情第 3 2 号 市議会として、秋田市新屋への地上イージス配備反対の意見
表明を求める陳情 (委員会付託)

- 第27 陳情第 33号 医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める意見書の提出について (委員会付託)
- 第28 陳情第 34号 介護従事者の全国を適用地域とした特定最賃の新設に関する意見書の提出について (委員会付託)
- 第29 陳情第 35号 お金の心配なく、国の責任で、安心してくらせる社会の実現のため社会保障制度の拡充を求める陳情 (委員会付託)
- 第30 陳情第 36号 若い人も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める陳情 (委員会付託)
- 第31 陳情第 37号 ケアプラン有料化などの制度見直しの中止、介護従事者の大幅な処遇改善、介護保険の抜本的改善を求める陳情 (委員会付託)
- 第32 陳情第 38号 「深刻な医師不足、高齢化の進行、公共交通機関の衰退など地方における公立・公的病院のおかれている医療事情の状況把握を欠いたまま、国の基準に基づく一方的な再編・統合は行わないこと」を国に求める意見書提出の陳情書 (委員会付託)

出席議員 (26人)

1番 古谷武美	2番	3番 三浦常男
4番 佐藤隆盛	5番 挽野利恵	6番 秩父博樹
7番 石塚 柏	8番 富岡喜芳	9番 本間輝男
10番 藤田和久	11番 佐藤文子	12番 小笠原昌作
13番 小松栄治	14番 後藤 健	15番 佐藤育男
16番	17番 児玉裕一	18番 佐藤芳雄
19番 高橋徳久	20番 橋本五郎	21番 渡邊秀俊
22番 佐藤清吉	23番 高橋幸晴	24番 大山利吉
25番 鎌田 正	26番 高橋敏英	27番 橋村 誠
28番 金谷道男		

欠席議員 (0人)

遅刻議員（0人）

早退議員（0人）

説明のため出席した者

市 長	老 松 博 行	副 市 長	佐 藤 芳 彦
副 市 長	西 山 光 博	教 育 長	吉 川 正 一
代 表 監 査 委 員	福 原 堅 悦	上 下 水 道 事 業 者 管 理 者	今 野 功 成
総 務 部 長	舩 谷 祐 幸	企 画 部 長	福 原 勝 人
市 民 部 長	加 藤 博 勝	健 康 福 祉 部 長	加 藤 実
農 林 部 長	福 田 浩	経 済 産 業 部 長	高 橋 正 人
建 設 部 長	古 屋 利 彦	災 害 復 旧 事 務 所 長	進 藤 孝 雄
病 院 事 務 長	富 樫 公 誠	教 育 指 導 部 長	佐 藤 英 樹
生 涯 学 習 部 長	安 達 成 年	総 務 部 次 長 兼 総 務 課 長	佐々木 隆 幸

議会事務局職員出席者

局 長	齋 藤 博 美	参 事	齋 藤 孝 文
参 事	進 藤 稔 剛	参 事	富 樫 康 隆
副 主 幹	佐 藤 和 人		

午前10時00分 開 議

○議長（金谷道男） おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

○議長（金谷道男） 本日の議事は、議事日程第3号をもって進めます。

○議長（金谷道男） 日程第1、本会議第2日目に引き続き一般質問を行います。

5番 挽野利恵さん。

【5番 挽野利恵議員 登壇】

○議長（金谷道男） はじめに、1番の項目について質問を許します。

○5番（挽野利恵） おはようございます。公明党の挽野利恵です。今回の定例会におきましても一般質問の機会を与えていただき、感謝申し上げます。

さて、今年も残すところあと1カ月となりました。先日からの雪で、いよいよ冬モードに入ってまいりました。

さて、9月20日から11月2日までの日程でラグビーワールドカップ2019が開催され、開催国の日本はもちろん、世界中が熱狂したことは記憶に新しいと思います。次々と強豪国を破り、初の準々決勝に駒を進めた日本の活躍は、そこに至るまでの壮絶なトレーニングや“^ワ ^ン ^テ ^{ーム}”となるまでの選手の精神的な苦悩や葛藤など、隠れた部分のストーリー報道と相まって胸が震えるほどの感動を日本中にもたらしました。アジア初、「^テ ^ィ ^ア ^ワ ^ン」と呼ばれる強豪国以外での初開催という注目度の高さや、『4年に一度じゃない。一生に一度だ。』のキャッチコピー、被災地釜石での試合など、あらゆるものがプラスの方向に作用した大会だったと思います。全45試合で170万人を超える観客動員であったことが、それを物語っており、“にわかファン”という言葉も私同様にわかファンという言葉もできるほどラグビー熱が一挙に盛り上がった感があります。

ラグビーにはあまり興味のなかった私も、にわかファンとなり、日本の試合をテレビ観戦いたしました。チームが組織として機能しながら屈強な男たちがハードコンタクトを繰り返す文字通りの肉弾戦、その激しさに衝撃を受けました。また、危険と隣り合わせな分、厳格なルールの下に進められるラグビーという競技の素晴らしさを肌で感じる事ができたと思っております。

選手たちのルール遵守の姿勢や試合終了後のすがすがしい行動を見ていると、自然に涙が出てくるほどの感動で、まさにスポーツの持つ力を実感した大会でした。来年の東京オリンピック・パラリンピック成功への良い足掛かりになったと思います。来年も日本初の大きな感動が世界中を駆け巡ることを願ってやみません。

話は変わりますが、去る10月1日から消費税が8パーセントから10パーセントに引き上げられ、2カ月が経過いたしました。当初懸念されていた引き上げ前の駆け込み需要や引き上げ後の買い控えなどの混乱は、おおむねなかったとの評価がなされており、また、我が公明党が主張し導入された軽減税率制度やキャッシュレス決済によるポイント還元制度についても、煩雑さや複雑さ、使い勝手の部分で一部に不満があったものの、

大きなトラブルや混乱もなく推移しているのではないかと思います。

しかしながら、生活者の立場としては、多少なりとも経済的な影響があることは間違いないところですので、この引き上げが国民の痛みに見合う、あるいはそれ以上の成果となって表われるよう、私といたしましても今後の推移や動向を見守っていきたいと考えております。

それでは、通告に従い質問させていただきますので、市長はじめ当局の皆様には、ご答弁よろしくお願いたします。

はじめに、高齢者ドライバーへの支援について質問させていただきます。

高齢化がその加速度を増す中、高齢者ドライバーの事故も高い水準で推移する昨今であります。高齢者が増えたことで事故の件数も増えるのですが、内閣府による「平成30年度高齢者の住宅と生活環境に関する調査結果」によると、2000年に37パーセントだった60歳以上の高齢者ドライバーが、2018年には56.6パーセントありました。「レストランの予約に間に合わない」と暴走した高齢者の車に母と子どもが巻き込まれ死亡した事件報道に、やるせなく暗い気持ちになったのは私一人だけではないと思います。

さて、本年7月に、東京都がアクセルの踏み間違いを防止する装置を設置するための「高齢者安全運転支援装置設置補助制度」を開始しました。これは、70歳以上の運転免許を有する都民の自家用車に装置を設置する費用の9割を補助するというもので、1人1台限りで上限は10万円だそうです。それに追随して、東京都ほどの補助率ではないにしても、全国的にもじわじわと制度を導入する自治体が増えてきております。「補助金があるから」と設置する方も増え、現在、すぐには装置が手に入らない状況もあると聞いております。

一方、平成29年の新車においては、急発進防止装置の搭載率は65.2パーセント、衝突被害軽減ブレーキの搭載率は77.8パーセントで、安全運転サポート車といわれるこのような装置を付けている車は6割以上も普及しておりますが、新車を購入するのは若い人が多く、高齢者は長年運転してきた車を大切に乘っておられる方が多いことを考えますと、残念ながら安全運転サポートがない車に乘っているのは圧倒的に高齢者が多いということになります。

交通インフラが整わず、移動手段が制限される地域に住む人たちにとっては、車はまさに移動の生命線であり、免許を返納してしまい、車がなくて医者にも通えないという

話はよく耳にします。

大仙市では、免許を返納された方に地域公共交通システムにおけるバスや乗合タクシーで利用できる割引回数券を交付しておりますが、あくまでもシステムへの誘導策の一環としての過渡的な色彩が強く、1枚100円で100枚までしか使えません。

車の自動運転技術は日進月歩で発達しており、近年では、人間の認知能力を超えた次元で不足する部分をAIがかなりの精度で補完してくれる技術が開発されつつあります。自動運転なら寝ていても運転してくれるかと思いきや、目のまばたきを感知して寝ていると判断されたときは、目を覚まさせたり、道からそれて止まってくれたりして人間をフォローしてくれるものだそうです。認知し反応するスピードが遅くなったり鈍くなったり、身体能力が衰え、アクセルとブレーキを踏み間違ったりしても、AIが正確な運転をサポートする、そのような時代がすぐそこまで来ております。

そこで質問ですが、高齢者の免許返納を促すだけではなく、高齢者でも安心して自動車が運転できるよう、市としてアクセルの踏み間違いを防止する安全運転支援装置を設置することへの補助ができないものでしょうか。免許返納を促す施策との折り合いの問題もあるかもしれませんが、ご所見を賜りたいと存じます。

○議長（金谷道男） 1番の項目に対する答弁を求めます。老松市長。

○市長（老松博行） 挽野利恵議員の一つ目の発言通告であります高齢者ドライバーへの支援に対する質問につきましては、市民部長に答弁させますので、よろしく願いいたします。

○議長（金谷道男） 加藤市民部長。

○市民部長（加藤博勝） 挽野利恵議員の質問にお答え申し上げます。

質問の、高齢者ドライバーへの支援についてであります。秋田県警察の統計によりますと、75歳以上の高齢者運転による死亡事故件数は、75歳未満の運転者と比較いたしまして多く発生しており、事故原因は安全不確認が最も多く、ほかにハンドル操作やアクセル・ブレーキの踏み間違いなどの操作ミス、判断誤りなどとなっております。

こうした状況から、ペダルを踏み間違えた際に急発進を防止する装置は、事故防止に一定の効果があると考え、普及啓発を目的に今年度の安全安心推進集会で安全運転支援装置付車両の体験乗車会を行っております。

市といたしましては、様々な機会を捉えまして安全運転支援装置の周知や高齢者向け安全運転教室の開催、運転免許自主返納の呼び掛けなどを行いまして、高齢者ドライ

バーの交通事故防止を推進してまいります。

安全運転支援装置への補助につきましては、現在、国で安全運転支援装置付の車の購入と、既に保有しております車への装置取付費用の補助を検討している段階であり、国の動向を注視してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（金谷道男） 再質問ありませんか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 挽野利恵さん。

○5番（挽野利恵） 30年度決算特別委員会での企画産業分科会での審査意見の中に、地域交通対策事業について、各地域の高齢化に伴った共助団体等による公共交通の在り方を検討されたいという意見に対しまして、当局の方から、地域住民自ら支える地域の足の確保に努めというふうな回答をいただいております。今この高齢社会の中で、やっぱり共助ということを考えますと、高齢者の力というのは絶対に必要なものでありますし、その高齢者の方が安心して、より安心して安全に運転するために、この制度の装置というのは非常に大事なのではないかというふうに思います。国の方も今動き出したというふうなご回答ありましたけれども、大仙市としても、この装置に対して前向きな姿勢なのか、それともやはり免許返納の方に重きを置いているのか、その辺についてお考えをお聞かせいただければと思います。

○議長（金谷道男） 再質問に対する答弁を求めます。市長。

○市長（老松博行） 挽野利恵議員の再質問にお答え申し上げたいと思います。

地域公共交通の関係では、決算特別委員会のご指摘の関係では、今言ったいろいろな共助、今、バス会社さん、タクシー会社さんをお願いしながらいろいろな地域公共交通をやっておりますけれども、その見直しに当たっては、やはり共助といいますか、そうした体制といいますか、そういうシステムも大変大事ではないかなということで今いろいろご説明しながら取り組んでいるところであります。地域公共交通の見直しということで今取り組んでいるところであります。

その関係で、今、関連してこの安全運転支援装置への補助につきましてということですけれども、私も安全安心集会の時にこの車に乗らせて、試乗体験させていただきましたけれども、今、普通に何ていいますかね、自動的にブレーキかかる車もたくさん出てきていますので、そうしたあれが、20年度からですかね……、22年度から生産され

る車は全てそうしたものが義務付けられるということですのでけれども、それまでの間、それから特に高齢者の皆さん、すぐに車を買換えるとかとそういうことではないというふうに思っていますので、国の制度を見ながら、市の方も安全対策の一助になるように市の方の対策も考えていきたいというふうに考えております。

○議長（金谷道男） 再々質問ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 次に、2番の項目について質問を許します。

○5番（挽野利恵） 次に、市民会館の自主事業について質問をさせていただきます。

自治体における会館自主事業は、当該自治体による住民への芸術文化等を鑑賞する機会の提供であり、その自治体が芸術文化にどのように向き合っているかを内外に示すバロメーターといえるでしょう。見てみたい、あるいは聞いてみたいアーティスト、演奏家、芸術家などを身近で鑑賞できることは、この上ない喜びです。同時に、他の自治体が魅力的な事業を行うとうらやましく思います。

合併後15年を目前としている本市においては、旧市町にあった各会館の自主事業を、合併前とは比較にならないほどの限られた予算で、それぞれ最大限の創意工夫をしながら時代のニーズに合わせて展開しているように見えます。「宝くじの文化公演事業」「NHKの公開番組」「自衛隊コンサート」など、上手に取り入れながら、入場無料で多数の市民に鑑賞の機会をつくっております。地域の催しを自主事業にして集客力を高め、喜ばれている事業もあります。入場料が発生する事業においては、集客力を推測しながら名の知られたメジャーなアーティストや演奏家、芸術家を呼び、高い収支比率を上げている事業もあり、会館の業務に当たられている職員の情報収集と事業展開に対する並々ならぬ努力に心からの敬意を表するものであります。

しかしながら、そのような中であっても、集客状況と収支比率が思わしくない事業が見受けられるのもまた事実です。集客できないということは、市民のニーズに十分に沿えていない可能性があるということですし、収支比率に関しては、そもそも無料で招致しているものや地元向けイベントなど、収支比率を念頭に置くことに意味がない事業を除き、興行的な要素の大きい事業で収支比率が低いものについては、予算に対して入場数と入場料の見通しや設定が甘かったきらいがあるのではないかと思います。

自主事業については、全国一律の入場料の設定があるアーティストや劇団などがありますが、そのような場合は入場数の目標を明確にし、それに向かって最大限努力する必

要があります。反対に、入場料の縛りが無いものについては、入場数の見極めをしっかりと行い、それに見合った入場料を設定すべきと考えます。民間であれば、会員価格と一般価格といった差別化を図るように、市民向けと一般向けに料金を変えるということも可能ではないでしょうか。

市民会館運営に当たっては、指定管理制度を導入している自治体もあれば、そもそも自主事業をやめている自治体もあり、自主事業が税金の垂れ流しにならないよう工夫されております。市民のための芸術文化は、多くの市民に足を運んでいただけることが究極の目標であります。自主事業については、入場数と収支比率に関しシビアな経営感覚で臨むべきであると考えます。

そこで質問ですが、市民会館の自主事業については、現状をどのように把握し、どのような評価をされているかお伺いいたします。

また、個別の事業に係る入場数と収支比率などの目標を設定して取り組まれているか、加えて、事業の実績をその後の事業運営に生かす取り組みをされているかを含め、今後の方向性に対するお考えの一端をお聞かせ願えればと思います。

○議長（金谷道男） 2番の項目に対する答弁を求めます。吉川教育長。

【吉川教育長 登壇】

○教育長（吉川正一） 質問の、市民会館自主事業についてお答え申し上げます。

はじめに、市民会館自主事業の現状把握とその評価についてであります。事業選定に当たっては、市民の有識者による「市民会館等運営連絡協議会」で検討し、事業後のアンケート結果に基づき自主事業を選定しております。

議員ご指摘のとおり、収支比率につきましては、100パーセントを超える事業もございますが、40パーセントを切る事業もあることから、事業の内容とともに入場料金の設定やPRの仕方などの課題があると認識しております。

一方で、これまでクラシック音楽やポップス、演劇、映画、民俗芸能など、幅広いジャンルの公演を市民に提供しており、多くの市民から一定の評価はいただいていると認識しております。

次に、入場者数の目標については、収容人数の最大数を目指してきてはおりますが、これまで実施されてきた様々なジャンルにおける実際の数値をベースに設定しているところでございます。収支比率については、この5年平均で概ね5割近くで推移しておりますので、それを上回る6割程度を目標にしたいと考えております。

どちらの目標設定につきましても、これまでの推移を基にしながら、その数値が少しでも上がるよう、事業選定とその運営に努めてまいります。

次に、これまでの実績を運営に生かす取り組みと今後の事業実施の方向性についてありますが、今後の取り組みとしましては、自主事業において入場料収入の増を図るため、より一層のPRはもちろんのこと、各種助成制度を活用したり、共催事業を取り入れてまいりたいと考えております。

なお、入場料金につきましては、全国統一の料金設定の公演を除き、今後は収支比率を十分考慮しながら入場料金を設定するよう努めてまいります。

今後の自主事業実施の方向性につきましては、これまで同様、市民会館等運営連絡協議会で収支比率も踏まえた公演内容を検討してまいりたいと考えております。

また、公共の事業という面もあることから、各市民会館の特性や地域性を生かしながら、市民ニーズに合わせた多彩なジャンルの公演を分担して行うことも念頭に事業を実施してまいりたいと考えております。

以上です。

【吉川教育長 降壇】

○議長（金谷道男） 再質問ありませんか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 挽野利恵さん。

○5番（挽野利恵） 30年度、31年度の事業展開について、すごく削減されて、本当に精査されてやられているなというふうに感じているんですが、やはり何としても低いまま推移している、低いまま継続しているという自主公演があるのも事実です。これに対して、このまま低いまま続けていくのか、それともやはり限られた予算の中ですので、家庭では生活するお金が少ないと、やはり一番最初に削られるのがこの娯楽部門に当たると思うんです。この部分に対して、大仙市としては、こういう芸術・文化に対するお金をどんどん減っていくかと思うんですけれども、でもそれでも続ける、やはり継続していくというふうな方向なのでしょうか。その点についてお聞きいたします。

○議長（金谷道男） 再質問に対する答弁を求めます。吉川教育長。

○教育長（吉川正一） 挽野利恵議員の再質問にお答え申し上げます。

やっぱり市民の豊かさという点でね、確かに福祉だとかですね、そういったところのお金も必要だと思うんですが、娯楽というかですね、自分の生き方を豊かにするという

点では芸術・文化は非常に大切でございます。それから、伝統芸能も大仙市にはたくさんございますのでね、そういった面で文化、伝統芸能も含めてですね、そういった文化面での事業は必要なものと捉えておりますので、確かに予算は厳しくはなっておりますが、是非とも続けてまいりたいなと思っております。

以上です。

○議長（金谷道男） 再々質問ありませんか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 挽野利恵さん。

○5番（挽野利恵） 前向きなご答弁、本当にありがとうございます。やはり入場数が少ないというのは、ニーズに沿ってないという可能性が非常に高いと思います。値段設定うんぬんよりも、そもそも市民のニーズに沿ってないものに多額の予算を付けるのは、私はいかなるものかなというふうに思います。その点について、ちょっと分かりにくい質問なんですけれども、その点についてどのようなお考えでしょうか。

○議長（金谷道男） 再々質問に対する答弁を求めます。吉川教育長。

○教育長（吉川正一） 先程答弁申し上げましたようにですね、100パーセントを超える収支比率もあるんですが、例えば入場料金も高くですね、比較的収支が悪いということですね、能公演がございしますが、全体ではまず5割なんですけど、過去5年間見ると能公演の収支比率は約33パーセントぐらいでございます。ただ、公演の内容によってね、その年その年でちょっと変えますので、そこでは20パーセントぐらいの差もあるんですが、いずれ例えば能楽堂を有しているのは大仙市だけでございまして、県内ではね。それから、東北でもですね、大仙市以外では四つぐらいしかないみたいでございまして、大変貴重な施設でございます。したがって、伝統芸能の維持、あるいは地域の特色、児童・生徒のふるさと教育といった面でも大変貴重な施設であると考えております。そういったことも含めてですね、事業選択の際には、先程議員からのご指摘もあったように、アンケートからの市民のニーズを基に、ジャンルや料金、毎年開催の必要性、毎年これやらなければいけないのかといったことも含めてですね、それから助成の有無などについて運営協議会で検討しながら、市民のニーズをまず最優先に収支比率のバランスが少しでもとれるよう努めてまいりたいなと考えております。

以上であります。

○議長（金谷道男） これにて5番挽野利恵さんの質問を終わります。

【5番 挽野利恵議員 降壇】

○議長（金谷道男） 次に、12番小笠原昌作君。

（「はい、議長、12番」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 12番。

【12番 小笠原昌作議員 登壇】

○議長（金谷道男） はじめに、1番の項目について質問を許します。

○12番（小笠原昌作） 新政会の小笠原昌作です。通告に従いまして、今回は2項目について質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

まずは、秋田県大仙市の2019年産米の作況指数は「104」のやや良となり、3年ぶりに平年作以上の結果となりました。これは、田植え後から好天に恵まれ、早期に分けつが済み、全もみ数もやや多いようでした。しかし、斑点米、カメムシ類により被害粒も例年以上に見られ、収量は向上したものの品質が伴わない面があり、今後の営農指導体制の強化が課題となりました。

大仙市では、大きな目玉として、新時代に向けた農業振興策の強化、総合戦略の一つとして、農業と食に関する地域活性化を着実に推進しようと掲げていますが、私は中山間地域の農業振興の重要な役割について取り上げたいと思います。

今、少子高齢化や若者の農村離れが原因で農村の人手不足が深刻な問題となっており、構造的な弱体化が進み、中山間地域の経営基盤の再建が急務であると思います。昨今の米価回復基調で何とか維持してきましたが、今後はどう変化していくか心配であります。

「将来を見据えて中山間地域をより元気に」という声が大きくなっていますが、中山間地域の集落は、農地を維持する農業があってこそ支えられるのであり、農業自体が衰退すれば集落崩壊の速度が速くなります。文字通り少子高齢化や米価への不安、猫の目のごとく米政策の転換など、多い課題に阻まれているようですが、これは農村の衰退につながるだけに、組織の持続的な活動が急務であります。

農業を基幹産業として掲げている大仙市においても、生産基盤の立て直しを見逃してはならないと思いますが、いかがでしょうか。

人材の育成には、農業団体とともに行政としても力を入れておりますが、どのくらいの効果を生んでいるのでしょうか。

今現役でバリバリ働いている50代、60代、70代の農業法人の方々は、今後、ますます高齢者に近づくにつれ、労力を確保したいが将来5年、10年後の人を集める手

段に苦慮しているようです。はっきりいって担い手頼みに限界感があることの見方を示している現状です。農業、農村を支えてきた団塊世代の高齢者や人口減少の中で、地域全体で守る仕組みづくりは、待ったなしの課題であります。

本来、農業が魅力ある産業として成長することが不可欠であり、米以外の売れる野菜や果実、花卉、畜産と多面的農業の販売力の強化、さらには発酵食品など加工品を取り入れた6次産業化への取り組みを加速させる必要があると思います。つまり、農業者の所得増と生産拡大の推進であります。若い農業者には、安定した報酬や年金も考えていかなければなりません。そのためには行政、農業団体、地域が全面的にバックアップし、将来の農業政策に弾みをかけることが大切かと思いますが、いかがでしょうか。

大規模化や法人化を進めることは必要ですが、圧倒的に多い小規模農家や家族農業の役割は重要視されています。今でも昔と変わらず地域を支えているのは家族農業で、農政は中山間地域への目配り、気配りが一層必要かと思いますが、いかがでしょうか。

地域を活性させることはもとより、伝統文化を引き継ぐ環境を保全する機能も大切であり、美しい農村の景観や水の大切さを鑑み、農業の価値を見直す機運を高め、そして豊かな田園都市を目指してほしいものです。これらを踏まえ、大仙市の農業振興策の強化戦略について、これからどう推進していくかについて市長のご所見をお伺いいたします。

○議長（金谷道男） 1番の項目に対する答弁を求めます。老松市長。

【老松市長 登壇】

○市長（老松博行） 小笠原昌作議員の質問にお答え申し上げます。

質問の農業振興策の強化戦略の推進についてであります。市では、農業が直面する諸課題に対応し、基幹産業である農業が将来においても持続可能なものとなるよう、これまで国・県事業の活用・連携に加え、市独自の支援策を実施し取り組んでまいりました。

主なものとしたしましては、ほ場整備による生産基盤の整備や米の需要に応じた米生産の推進、大豆の生産振興、複合経営に向けた機械・施設導入への支援、6次産業化の推進などに力を注いできたところであります。また、担い手対策におきましては、農業経営の法人化や担い手への農地の利用集積を進めるとともに、市内2カ所の新規就農者研修施設による若手農業者の育成確保に努めております。

一方、中山間地域の振興策として、生産基盤の整備におきましては、事業要件が受益

面積 5 ヘクタール以上に緩和される「県営ほ場整備事業」のほか、市単独事業である「小規模集落元気な地域づくり基盤整備事業」の活用による農家負担の軽減、特に条件不利地とされる地域については、「元気な中山間農業応援事業」を実施してきたところでもあります。

これら取り組みの成果として、法人数は、本年 9 月末時点で 100 法人となり、法人の平均経営面積は 37.3 ヘクタールと 3 年前に比べ 9.3 ヘクタール増加しており、国の最新の公表値である平成 29 年の農業産出額は、米、大豆、野菜、畜産部門の伸びにより 227 億 5,000 万円と 3 年前に比べて 43 億 7,000 万円の増となり、効率的な営農や複合経営の進展、所得の向上につながっているものと考えております。

しかしながら、地域農業における担い手の高齢化やさらなる農地集積の限界感など、これまで同様の施策の継続だけでは、5 年後、10 年後の将来にわたって地域農業を維持発展させていくことは難しい問題と捉えております。

これらを受けまして、今般策定する「農業と食に関する活性化基本構想」につきましては、地域農業の発展に向け、地域の担い手を確保し、持続可能な強い農業を目指し、本市が持つ地形や気候、水源等の恵まれた自然環境を背景に、優れた農産物、雪国ならではの発酵食品、特色ある地酒など、地域資源を最大限に生かし大仙市全体が活気づく裾野の広い産業構想として策定するものであります。

いずれにいたしましても、基幹産業である農業を持続的に発展させていくためには、大規模経営体や家族農業など、農業者がともに支えて成り立つものと考えており、これまでの農業振興策に加え、持続可能な強い農業の実現に向けた「農業と食」の構想を進め、総合的に地域農業の発展に向け取り組んでまいりたいと考えております。

【老松市長 降壇】

○議長（金谷道男） 再質問ありませんか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 12 番小笠原昌作君。

○12 番（小笠原昌作） どうもありがとうございました。再質問というよりもお願いでございますけれども、今いろいろな施設、研修所、そういう形で大仙市の農業、若い人方を一生懸命弾みをかけているわけですが、もちろん県内、県外のいろんな学びやで農業を勉強している方もおります。そうした中で家族農業を一生懸命積んで、畜産、畑作、田んぼはもちろんですけれども、そういう中でも中山間地で一生懸命頑張ってい

る方もおります。また、直売所で笑顔で仲間の野菜、いろいろなものを売られている女性の皆さん方には、本当に頭が下がる思いですが、どうか努力農業振興という形で、今後とも心厚い支援策をお願いしたいものだと思っております。よろしく申し上げます。

それからもう一つですけれども、そのためには地元の安全で安心、おいしい農産物をアピールいたしまして、いろんな宴会場やレストラン、学校、医療機関や福祉施設など各方面に、この地元の生産物を供給できるよう、もっともっとアピールをお願いしたいものだと思います。何とぞよろしく願いいたします。

○議長（金谷道男） 再質問に対する答弁を求めます。老松市長。

○市長（老松博行） 小笠原議員の再質問にお答え申し上げたいと思います。

今、小笠原議員からご指摘がありましたようなことが、今、国におきまして、来年の3月に改定を予定しております政府の食料・農業・農村基本計画というのを今一生懸命政府の中で、また、自民党、与党の中で議論されているようでありますけれども、その中でやはり産業政策としての農業・農政と、それから地域政策としての農業・農政、今の雰囲気は、今までは大変その産業政策に偏り過ぎていたというようなことで、これからは地域政策にもっともっと力を入れていかなければいけないということで、今いろいろそういう方向の議論がされているということで、3月にまとまるこの基本計画、政府の計画は、おそらく地域政策に偏ったといいますかね、そちらの方へ力を入れていく、いわゆる今言われてました中小規模の農家、家族農業、それから中山間地の農業、それから兼業農家ですかね、そうしたいわゆる一帯の土地を持ちながら、そして地域コミュニティを維持する、そうした役割を持っているそうした方々をもっと応援しなければいけないというような、そういった議論が今盛んにされておりますので、そうした方向に市の方もあわせて取り組んでいかなければならないというふうに思っております。強みを生かした農業と、いわゆる産業政策と、それから地域を守るそうした農業についても、しっかりと支援して取り組んでいきたいというふうに考えています。

○議長（金谷道男） 再々質問ありませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 次に、2番の項目について質問を許します。

○12番（小笠原昌作） 通告の二つ目に、健やかで元気な高齢者の活動について取り上げてみました。

今年の敬老の日を前に県がまとめた高齢者に関する調査によりますと、県人口に占め

る65歳以上の割合を示す高齢化率は37.1パーセントとなり、前年から0.8パーセントポイント上昇し、過去最高となりました。ちなみに大仙市は38.3パーセントでありました。

9月の「敬老月間」にあわせた大仙市内の敬老会では、今年度76歳以上の人が7月1日現在1万6,244人で、前年度に比べ107人減っていました。人生100歳時代といっていますが、70歳代、80歳代の人々が現役で就業している人がたくさんおります。特に大仙市では農林業の就業者が多く、人手不足を支える重要な戦力となっています。

県内企業70歳以上の雇用40パーセントも大きな力となっております。

こうした中で地域を基盤とする高齢者の自主組織である各地域の老人クラブが大きな役割を果たしています。老人クラブでは会員制となっており、地域ごとに多種多様な活動を行っていますが、人口減少で悩んでいる今日、計り知れない貢献をしています。特に大仙市では、社会奉仕活動や創造的活動に参加することを呼び掛け、健康づくりシニア・スポーツ、趣味文化レクリエーション、芸能、会員研修、伝承活動、環境美化、または行政や自治会に提言・提案など、様々な面で地域の機動力となっております。しかし、老人クラブの会員は減少傾向にあります。20年前の半分となりつつも、クラブの解散も相次いでいる状況でございます。

今、大仙市全体の約5,500人余りの会員が活動していますが、60代、70代の方々に会員を勧誘すると、「老人クラブに入るほど歳はとっていない」「老人という言葉が気に入らない」などの理由で断られることがあるそうです。それも時代の流れかもしれないかもしれませんが、反面、年々若者意識を保つ、これも致し方ないなと思っております。また、定年後、ライフスタイルの多様化が背景にあります。高齢者雇用の年齢引き上げも検討・実施していますが、しかし、地域の担い手になっている状況も踏まえ、どうすれば会員を維持し、クラブを運営していくのか、今後の大きな課題であります。市としては、地域にとって大きな役割を果たしている老人クラブを、どのように位置付けし、今後どのように支援していくか率直にお伺いいたします。

次に、先に述べたことと類似していますが、高齢者のスポーツ活動に述べたいと思います。

大仙市では、市民が生涯通じて「一生スポーツ 一生健康」を目玉として気軽なスポーツを推進していますが、人生100歳時代、健康長寿を目指して高齢者のスポーツ

に大きな声掛け運動することが大切かと思えます。特に年々高まってきている500歳野球はもちろん、ゴルフやウォーキングなど多種多様にわたって四季折々、若い人たちと一緒に楽しんでいる姿は素晴らしいものがあります。

今日では、医療費や介護費が市の財政を大きくゆるがしているが、健康寿命をいかに伸ばすかが大きな課題であります。単に長く生きるのではなく、長く健康に生きることはいうまでもありません。健康な体をいかに保つか、知恵を絞る時代になり、適度な運動で心身の機能を維持することが大切です。そのためには、地域老人クラブの役割は大きいものです。

一例ですが、今年、私どもの西仙北で女性たちが高齢になっても健やかにスポーツを楽しもうと、市の協力を得まして、第1回大仙市500歳レディース8人制バレーボール大会を開催いたしました。以前から結成していた南外地域のチームと総当たりの試合でしたが、80歳代の選手も何人かおりまして、みんな明るい笑顔で心地よい汗を流しては、健やかそのものでした。今回は初めての3チームと少ないのですが、地道に続けて規模を大きくし、全県500歳野球大会のように頑張っていきたいと思いをかみしめていました。

今や、豊かに歳を重ねていく高齢者社会こそ幸せなことです。こうした中で市としても様々な知恵を出し、健康で生き生きとした生活を送れる高齢者を、一人でも多く増やしていくことに、今まで以上に重ねて支援していただくようお願いしたいと思います。これらについて、どうかよろしくお伺いいたします。

○議長（金谷道男） 2番の項目に対する答弁を求めます。西山副市長。

【西山副市長 登壇】

○副市長（西山光博） 質問の、健やかで元気な高齢者の活動についてお答え申し上げます。

はじめに、老人クラブ支援につきましては、今年度、大仙市老人クラブ連合会に対して308万円、大仙市内で活動する単位老人クラブに対する総額817万円の合わせて1,125万円の補助金を交付しております。

12月現在における市内の単位クラブ数は155クラブで、総会員数は5,508人となっております。平成26年度当初と比較すると、クラブ数で14クラブの減、会員数では1,374人の減と、近年、減少傾向が続いております。

老人クラブの加入年齢は、おおね60歳としているクラブがほとんどであります。

昨今のライフスタイルの多様化などにより、新規加入者の確保が難しくなっていることが、クラブ数及び会員数の減につながっているものと考えております。

全国的にも同様に減少傾向にあり、とりわけ若手会員が少なく、将来の会長などの担い手不足もクラブ存続の課題として危惧されております。

このような状況の中、大仙市老人クラブ連合会では、次世代のリーダー育成に向けて、秋田県老人クラブ連合会が結成した若手委員会や各種研修会に積極的に参加しております。

また、市内各地域の老人クラブ同士の意見交換の場である市老連事務担当者連絡協議会や、市老連としての若手委員会も設置し、様々な情報を共有しながら、会員増強に向けた取り組みを実施されております。

老人クラブは、各地域における自主組織でありますので、市といたしましては、組織や運営に直接関わることはできませんが、第3次大仙市地域福祉計画において、生きがい活動や友愛訪問活動などにより、高齢者の孤立防止につながる取り組みを担っていただく中心的な組織として位置付けております。

今後とも、各クラブがそれぞれの地域を基盤とし、高齢者が健康で元気になるための多彩な活動を積極的に展開していけるよう、引き続き支援してまいります。

次に、高齢者のスポーツ活動についてであります。第3次スポーツ推進計画の基本目標として、「ライフステージに応じたスポーツの活動と健康づくりの推進」を掲げており、その中で高齢者が生きがいをもってスポーツに親しめる環境づくりを推進しているところであります。

具体的には、総合型地域スポーツクラブや体育協会において、スロートレーニングやストレッチ、森林浴ウォーキング、登山・散策、グラウンドゴルフ、ラージボール卓球など、スポーツとレクリエーションを融合した健康教室等を開催しております。

今後とも、これらの高齢者向けの運動プログラムとしてのスポーツイベントを引き続いて発信するとともに、老化による運動機能や認知機能の低下と高齢者の閉じこもりを予防するため、高齢者包括支援センターで実施している「さわやか教室」などと連携をとりながら、心身の機能向上を目的とした日常での取り組みも進めてまいります。

このような活動をとおして、多くの高齢者の笑顔が少しでも見られるよう、スポーツによる健康維持と健康寿命の延伸に努めてまいります。

以上でございます。

【西山副市長 降壇】

○議長（金谷道男） 再質問はありませんか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 12番小笠原昌作君。

○12番（小笠原昌作） どうも大変ありがとうございました。どうか老人クラブのパワーをよろしくお願ひしたいと思ひます。

今やグラウンドゴルフが我が大仙市、あちこちのみどりの広場で、お子さんからお年寄りまで大変親しまれるスポーツとして人気を呼んでいますけれども、軽いスポーツとして愛されるこのグラウンドゴルフ、市内の施設もまずまず整備されておりますし、高齢者にとっても適度な健やかなスポーツとして大変毎日人気を呼んでいます、特に大仙市のグラウンドゴルフの熱、これはほかの方よりも非常に高いわけですが、これも老人クラブ同様、若干減っておりますが、どうかひとつ、この本当に素晴らしいスポーツでありますし、大仙市の健康パワーには最適だと思いますので、いろんな形で、市長杯という言葉がありますけれども、野球もあります。それから囲碁とかそういう文化的なものでもありますけれども、是非このグラウンドゴルフを大仙市として、もっともっとアピールして、市の企画として取り上げていただければ大変ありがたいなと思っております。

以上です。

○議長（金谷道男） 答弁いりますか。

○12番（小笠原昌作） いらぬです。

○議長（金谷道男） これにて12番小笠原昌作君の質問を終わります。

【12番 小笠原昌作議員 降壇】

○議長（金谷道男） 次に、日程第2、議案第127号から日程第25、議案第150号までの24件を一括して議題といたします。

これより質疑を行います、通告はありません。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） 質疑なしと認めます。

ただいま議題となっております議案第127号から議案第150号までの24件は、

議案付託表のとおり、それぞれ所管の委員会に付託いたします。

○議長（金谷道男） 次に、日程第26、陳情第32号から日程第32、陳情第38号までの7件を一括して議題といたします。

本7件は、お手元に配付の陳情文書表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

○議長（金谷道男） お諮りいたします。各常任委員会審査のため、12月7日から12月15日まで9日間、休会したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（金谷道男） ご異議なしと認めます。よって、12月7日から12月15日まで9日間、休会することに決しました。

以上で本日の日程は、全部終了しました。

本日はこれをもって散会し、来たる12月16日、本会議第4日を定刻に開議いたします。

ご苦労様でした。

午前10時58分 散 会

